

第21回まちの駅全国大会 in 会津

～「まちの駅」が 地域をひらく・つなぐ・むすぶ～

【日時】2018年11月9日（金）～11月10日（日）

【会場】会津若松ワシントンホテル

【主催】全国まちの駅連絡協議会

【主管】まちの駅全国大会 in 会津実行委員会

【後援】総務省、観光庁、福島県、会津若松市



まちの駅全国大会 式典

11月9日 13:00～13:45

開会挨拶

稲生孝之(まちの駅全国大会 in 会津実行委員長)

みなさま、おばんでございます。ようこそ会津へお越しくださいました。会津での全国大会は2回目ですが、今日は初心に帰って、「まちの駅が地域をひらく、つなぐ、むすぶ」というテーマを掲げて開催することに致しました。

今年は戊辰150周年の節目の年、新たな交流をスタートさせたいと考えています。歴史的なつながりがある鹿児島、山口、長岡、水戸からも参加していただいています。それぞれの地域でも、明治維新150周年のイベントが盛大に開催されていると聞いています。悲しい過去もありましたが、それぞれの地域で先人が歩んできた歴史にも思いを馳せながら、まちの駅の交流・連携を深めていただきたいと思います。最後まで楽しく進めて行きたいと考えております。

本日は全国各地から多数お集まりいただき、ありがとうございます。最後まで、どうぞよろしくお願い申し上げます。



主催者挨拶

上野春樹(全国まちの駅連絡協議会副会長)

みなさま、こんにちは。21回目の全国大会になりました。また、まちの駅の実証実験から20年目でもあります。

昨年の20回大会は福岡県で開催し、今年が会津若松市。振り返れば、第8回全国大会を福岡県甘木朝倉地域で開催し、次の第9回を会津若松市で開催しました。また、昨年は朝倉市で大水害があり、被災地同士でもあります。偶然とは言え、兄弟のようなつながりを感じているところです。福岡と福島とで、福をつなげていければ幸いです。

朝倉地域も高齢化地域であり、災害復興の中で他の地域へ避難した方がなかなか帰ってこないということもあり、災害復興と地域の発展をどう進めて行くかは難しい課題で

あるが、まちの駅のつながりの中で対応していきたいと考えています。

2020年にはTOKYOオリパラが開催され、訪日外国人が4000万人になるとも言われています。まちの駅がインバウンドの窓口になって、地域の魅力を発掘して、観光産業を興していくことが重要であると考えています。まちの駅3000ヶ所に向けて、共に頑張ってまいりましょう。

今日は闊達な議論で充実したフォーラムになることをお願いして、会長代理の挨拶といたします。

来賓祝辞

佐久間弘元氏(福島県会津地方振興局長)

みなさま、こんにちは。

第21回まちの駅全国大会が盛大に開催されることをお祝い申し上げます。全国各地から、ようこそ会津にお越しくださいました。また、まちの拠点づくりに各地域で取り組んでおられることに深く敬意を表します。

会津には、美しい自然や文化的遺産が、現代に受け継がれている生活文化や食文化も感動いただけるものであります。今年は戊辰150周年であり、全国新酒鑑評会では6年連続日本一になるなど、会津の奥深い魅力を存分に味わっていただき、地元に戻られてからも会津の良さを伝えていただければ幸いです。まちの駅による交流の増大が、地域の発展になることを大いに期待しています。福島県でも魅力あふれるまちづくりを進めておりますので、まちの駅の皆さんのお力添いをよろしくお願いいたします。

結びに、全国大会の成功とまちの駅の更なる発展、ご参集の皆さんの健勝を祈念いたします。



全国まちの駅連絡協議会の役員紹介

FM 会津特別番組

「戊辰 150 周年、まちの駅でもっと交流しよう」

パーソナリティ:永井智佳氏(FM 会津)

インタビュアー:野田智子氏(FM 会津)

ゲスト:庄司圭織氏(ミスツーリズムクイーンインターナショナル日本代表 2018)

永井 こちらはコミュニティ放送局 FM 会津です。特別番組「戊辰 150 周年、まちの駅でもっと交流しよう」を会津若松市ワシントンホテル 2 階双鶴の間より、1 時間の公開生放送※1でお届けします。途中で会場のまちの駅の方にもインタビューしますので、どうぞお楽しみに。それでは本日の素敵なゲスト、庄司圭織さんを紹介しましょう。



オープニング・ふくしま隊

庄司 皆さん、こんにちは。「ミスツーリズムクイーンインターナショナル」は、各地の観光を盛り上げて世界をつなごうというミスコンテストです。私はその日本代表として、日本各地の魅力を世界に発信していく役目を担っています。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

永井 さて、今年は戊辰 150 周年です。戊辰戦争の時の「義



の心」、会津ではその精神が今も受け継がれています。そんな節目の年に「まちの駅全国大会」が、ここ会津の地で開催されることになりました。庄司さんは、

“まちの駅”をご存知でしたか？

庄司 まちの駅は全国各地にたくさんあるんですね。恥ずかしながら知りませんでした。20 年も続いている全国大会にお呼びいただき、とても光栄に思っています。

永井 まちの駅は、「休憩」「案内」「交流」「連携」の 4 つの機能を持つ「立ち寄り処」です。会津地域には 50 のまちの駅があり、FM 会津も「ラジオの駅」というまちの駅になっていますよ。まちの駅の同士で情報交換もしていきたいと思います。では、ここで一曲お聴きください。

曲：南こうせつ “会津その名の情熱” ♪

永井 会津では戊辰 150 周年イベントが行われていますが、全国各地でも様々な 150 周年のイベントが開催されているようです。各地の取り組みを紹介して頂きましょう。フロアの野田智子さん、インタビューをよろしくお願いいたします。

野田 はい、ここからは私が話を伺って参りますね。それでは、全国のまちの駅の取り組みと“もっと交流する”ためのアイデアを聞いてみようと思います。まずは「鹿児島まちの駅連絡協議会」の河井達志さん、お願いします。

河井 鹿児島でも明治維新 150 周年の様々な記念イベントが、正月から各地で大々的に開催されています。NHK 大河ドラマ「西郷どん」では、女性目線で西郷さんが描かれています。ぜひ、人に温かく、女性をととても大事にしていた西郷さんを見ていただきたい。鹿児島では島しょ部も含めて、県内全域で 130 のまちの駅がネットワークを組んでいます。地域に根差し、地域を変えるまちの駅を目指して、インバウンドも含めて、おもてなし事業にチャレンジしています。先日、種子島でも「まちの駅シンポジウム」を開催し、大いに盛り上がったところです。

野田 はい、ありがとうございました。次は、まちの駅水戸ネットワークの荒井さん、お願いします。



荒井 水戸市でも明治維新 150 周年として、水戸偕楽園の梅まつりで賑わったり、講道館の改修工事も終わり、皆様をお迎えしています。水戸のまちの駅は、水戸芸術館、京成百貨店、ホテル、茨城新聞社などの多様な業態と商店街の老舗など、15 駅でネットワークを組んでいます。世代交代して若手メンバーが運営を任されており、常に仲間意識を心掛けています。他の団体とも連携・共同してフェスティバルやイベントを開催しています。子供を対象にした感謝フェスティバルで、今までは昔遊びをしていましたが、今年から「E スポーツ」を取り入れました。まちの駅ネットワークで共催して E スポーツの県大会や全国大会を夢見しています。水戸での実績を共有できたらいいですね。

野田 ありがとうございました。では、越後長岡まちの駅の原田さん、お願いします。

原田 長岡は牧野の殿様が入城してからちょうど 400 年。長岡は会津との歴史的なつながりが深い地域です。戊辰戦争では、河井継之助が官軍の会津進軍を防ぐために戦った北越戦争で敗れ、会津に向かう八十里峠を越えた所で果てたという歴史もあります。そうした先人達の歴史があって、今の我々の幸せがあると実感しています。昨年、鹿沼市のまちの駅に研修に行き、鹿沼の人の熱さ、素晴らしい活動に感動しました。心を開いて、人が繋がっている。我々ももっと繋がっていききたいと思い、先日、オール新潟まちの駅交流会を開催しました。70 人ほど集まってとても盛り上がりました。今後も継続していこうと考えています。鹿沼訪問の際、お酒の席で「鹿沼の皆さんを長岡花火に招待する」と言ってしまった。そうしたら、鹿沼から 8 名も来てくれました。口にすれば夢が叶うんですね。鹿沼の方も長岡花火を観て感動してくれました。人を迎え入れるだけでなく、自分たちから出掛けて行って、繋がっていくことが重要だと教わりました。

野田 はい、ありがとうございました。では、まちの駅ネ

ットワークとちぎの吉田恵子さん、お願いします。

吉田 宇都宮市は歴史的な著名人こそいませんが、戊辰戦争と太平洋戦争と2度もまちの中心部が焼け野原になった数少ないまちのひとつです。戊辰戦争では、宇都宮藩は新政府につきました。2年前には本物の「錦の御旗」が発見されています。当時、戦さに敗れ野ざらしにされていた幕府軍の兵士の亡骸を、気の毒に思った住民たちが弔い、市内の各所に墓碑や慰霊碑が建てられました。今でも毎年慰霊祭が行われています。150年間の歴史のご縁を大切に、まちの駅を通して返していきたいですし、宇都宮でも新たな歴史を紡いで、後世に残していきたいと思っています。

野田 ありがとうございます。4名のまちの駅の方にお話を伺いました。それではスタジオにお返しします。

永井 はい、明治元年から150年の歴史、各地のまちの駅の取り組みを伺いました。庄司さんはどう思われましたか。

庄司 各地でいろいろな取り組みが行われているんですね。皆さん、地域の歴史をしっかりと受け継いで、地域で活動しているのがすごいです。それが今につながっていることを実感しました。行ってみたくりますね。

永井 ところで、庄司さんはどちらのご出身ですか。

庄司 私は東京出身なので、田舎がある人がうらやましいです。方言も可愛げがあっていいですよ。

永井 会津の言葉も受け継がれてきたものです。例えば、ありがとうは「ありがとなし」って言います。では「こねっちゃあつか」は、どういう意味だか分かりますか？

庄司 う〜ん、捏ねてみるか？!

永井 「来ねっちゃあつか」は「なんで来てくれないの」「絶対来てよね」という意味なんです。曲の題名にもなっているのでご紹介しましょう。

曲：ナスカ「コネッチャアツカ」♪♪

庄司 「見ねっちゃあつか」というのもありましたね。

永井 はい、見ないなんてもったいないという意味です。会津の見どころはたくさんあるので見に来てねという歌詞でした。猪苗代湖では海水浴もできます。猪苗代町では水質を守る活動もしています。今は各地の紅葉が見頃ですね。特に南会津の紅葉はお勧めですので、ぜひ。

庄司 私は会津訪問が3回目ですので、いろいろいいところを発見してみたいです。



<マレーシアのまちの駅実験報告>

永井 それではここで、マレーシアで行われているまちの駅の実証実験について、ご報告して頂きましょう。

アデウハ 本日はお招きいただきありがとうございます。マレーシアで実施した「まちの駅の実証実験」の報告をし

ます。7歳から60歳までが参加して行われた実験の様子をビデオで見ていただきます。

…ビデオ上映…

永井 若者だけや年配者だけではなく、みんなで取り組んでいるということが重要ですね。海外でも、まちの駅が取り組まれていることが分かりました。

庄司 いろいろな国の方とお会いする機会がありますが、日本が好きだという外国の方はたくさんいらっしゃいます。訪日の一番のハードルは言語が通じないこと。また、タクシーが高いというイメージもあるようです。インターネットで情報を得ていて、よく活用するアプリは「トリップアドバイザー」が多いようです。

永井 ほんとうに SNS を使って情報を得ている人が多くなっていますね。

庄司 私も日本のいいところを SNS で発信していますが、海外からいきなり、「どうしたら行けますか」とか「お勧めはどこですか」といった質問が来ることもあります。

永井 なるほどですね。ではここで、庄司さんにいただいたリクエスト曲をお届けしましょう。

曲：いきものがかり「ありがとう」♪♪♪

永井 「まちの駅ソング」があることをご存知ですか。

庄司 いいえ、知りません。

永井 実は私も聞いたことがないので楽しみなのですが、まちの駅ネットワーク本庄で「まちの駅ソング」を作ったということです。本庄の皆さんにご披露頂きましょう。

阿奈 埼玉県本庄市から来ました。昨年の役員会で「まちの駅の歌がある」といいと提案しました。賛同されたかどうかは分からなかったのですが、言い出しっぺなので、バンド活動をしている居酒屋のおやじさんに作ってもらいました。インバウンドが言われているので、英語バージョンも作りました。とても簡単に歌いやすい歌なので、皆さんも一緒に歌ってくださいね。



曲：本庄まちの駅ソング ♪♪♪

永井 さて、そろそろエンディングのお時間が近づいてまいりました。庄司さん、いかがでしたか。

庄司 不慣れなところもあったかと思いますが、とても勉強になりました。ありがとうございました。

永井 はい、特別番組「戊辰150周年、まちの駅でもっと交流しよう」は以上で終了となります。皆さま、最後までお付き合いくださり、ありがとうございました。

※1 フォーラムプログラムですので、実際にオンエアはされていません。

1. インバウンド～YOUは何しにまちの駅へ？

担当幹事：稲生孝之、上野春樹、吉田恵子

話題提供1：外国人観光客の「まちの駅」を考える

武田研二氏(株)JTB 仙台支店観光開発シニアプロデューサー)

- ・インバウンドの数が大幅に増えており、今年も昨年を上回るペースで伸びている。東北地方の観光は春の桜と秋の紅葉の2シーズンに集中しているので、平準化させ、オールシーズン楽しめるものを共同して商品化していくことも必要だろう。高くてもいいものは売れる。
- ・隣のまちと差別化し、SNSを活用して発信することが効果的。写真のコンテンツによりSNSの発信力が高まる。ブロガーやユーチューバーはいい機材を使っており、画像や映像が素晴らしい。とても参考になる。
- ・今までの「交流人口」から「関係人口」へと、総務省が力を入れている。定住まではいかないが、関係が出来たまちと継続的に関わりを持つのが関係人口。ふるさと納税の返礼品としてまちを体験してもらい、関係人口になってもらおうという取り組みも出て来ている。
- ・東北では緑を楽しむ体験が重要である。緑は人の心を落ち着かせる。時間も掛かることだが、いろいろな緑を増やすことで人が集まってくると思う。
- ・インターネット環境の中で、デジタルノマドが増えている。ノマドとは放牧民の意味である。デジタルノマドはシスマホやPCで仕事をしながら世界中を移動する。いろいろな地域で交流やボランティア等の体験をすることで刺激を得て、クリエイティブな仕事をしている。
- ・デジタルノマドは最短でも1週間から数か月、ホテルなどに滞在する。日本ではコミュニケーションをとれる場所が街中に少ない。「まちの駅」がデジタルノマドの対応を担えるのではないかな。



Q：どうやったら、まちの駅ネットワークで、デジタルノマド対応の仕組みができるのか？

A：インターネット環境は不可欠だが、24時間対応でなくてもいいと思う。例えば、会津に泊まった方が次にどこに行くかを紹介するなどのつながりが重要だろう。

話題提供2：マレーシアのまちの駅社会実験の報告

アデウハ氏&シティ氏(マラヤ大学建築環境学科)

- ・コミュニティの活性化を目的として、マレーシアのタイピン市で「まちの駅」の実験事業を行った。まちの駅のロゴマークと「地域の停留所」という意味の「HENTIAN KOMUNITY」と表記した。幸運を呼ぶ「象

をマスコットキャラクターにした。

- ・タイピン市は歴史的な建物や緑の多い都市で、昔からの店では店主と客が会話をしていた。最近、高層ビルが増え、ショッピングセンターはモノを売るだけで地域住民との触れ合いがなくなった。まちの景観が損なわれ、コミュニケーションが失われ、交通事故が増え、空きビルで犯罪が発生するようになった。
- ・市行政は、人の関わりでまちづくりを進めるために「まちの駅」に注目した。来日して会津と宇都宮の「まちの駅」を視察した。そこで学んだことは、①店舗と住民と行政がネットワークを組んで活動する「ソーシャルキャピタル」であること。②街を歩くことでまちの良さを再認識でき、安全安心にもつながること。
- ・まちの駅事業は2017年3月から始めた。事前調査として「住民アンケート」「施設のオーナーアンケート」を実施。その後、半年かけて関係者や住民とミーティング。2018年1月にまちの駅をオープン、「州立博物館」「州立図書館」「市立ギャラリー」「ヒンドゥー教寺院」「中国人協会」の5ヶ所で実施。プロモーション活動として、SNSやHPで発信したり、写真コンテストを開催した。
- ・同年3月には「私と一緒に歩きましょう」のまち歩きイベントを実施。マレーシアは暑さのせいもあり、歩かない生活になっている。参加者の感想の一番は「思ったより疲れなかった」であった。その他、「まちの観光資源を観られた」「まちの歴史をすることができた」など。
- ・一番の課題は、オーナーの意識改革。市行政に応援してもらっているのだから、事業を継続していきたい。

＜全体意見交換＞

コメント：庄司圭織氏(ミスツーリズムクイーンインターナショナル日本代表2018)

- ・外国人観光客とのコミュニケーションでは、言葉が通じなくても、身振り手振りで気持ちはつながる。海外から日本人は反応が薄いと言われる。外国人は、通じなくても知っている単語をどんどんぶつけてくる。
- ・外国人観光客は都市を経由して地方に行く。最初に行く目的地になることが重要である。野沢温泉は古い町並みを残しながらインバウンド対応に徹しており、まちを歩けば所々にウエルカムが発信がある。
- ・SNSの活用では、発信する時間帯が重要である。昼休みと寝る前にチェックする人が多いので、その時間帯に投げると受け取ってもらいやすい。
- ・海外に行って自分が「外国人」になる経験をする、訪日外国人の気持ちが分かり、インバウンド対応のおもてなしを考える機会にもなる。海外経験をお勧めしたい。



2. まちの駅の機能アップ～若者も立寄るまちの駅へ

担当幹事：福田義一、中川一男、阿奈正子

報告1 長岡大学鯉江ゼミナール

- ・鯉江ゼミでは新潟県内のまちの駅を調査研究している。長岡大学もまちの駅になっている。各まちの駅の声を反映させたまちの駅エリアマップを作製した。
- ・まちの駅のイベントに参加することは、学生が社会とつながる機会として学ぶことが多い。
- ・まちの駅の課題は認知度の低さ。「道の駅」ほどの開放感がないので、のぼりや看板があっても建物の中には入りにくい。一方、まちの駅の方が「道の駅」より客との距離が近いので、人とのコミュニケーションを増やしたり、入り易い雰囲気づくりが必要ではないか。
- ・まちの駅は、地域の人交流の場としてなくてはならないものになっていると思う。「道の駅」は知っているがまちの駅は知らないという感想が多い。若者はまちの駅の活用はしにくい。もっと若者へのPRが必要である。
- ・おばあちゃんの休憩場所になっているまちの駅や、子どもや生徒の遊び場になっている事例もある。駅長さんの“人柄”や“笑顔”が重要ではないかと感じる。
- ・店の客が増えることを期待してまちの駅になっているところもある。イベントをすることで来てくれる人が増えるだろうが、おもてなしの心の意識が薄れていくのではないかと感じる。



普段から足を運んでくれる人を増やす工夫が必要である。まちの駅ネットワークに加入する際に“意識の確認”が必要ではないか。

報告2 大嶋和陽君(日本大学理工学部 4 年)

- ・「まちの駅のネットワーク」をテーマに、卒業論文を書いている。まちの駅は、当初の地域連携軸構想から地域ネットワーク型になり、まちおこし活動に変化している。各地のまちの駅ネットワークを比較して、期待できる効果の検証をしている。その中間報告をする。
- ・全国の 32 のまちの駅ネットワークにヒアリングを行った。その結果を、3 つの体制図に分けて分析を行った。
- ・「官民協同型」は、市役所や商工会議所が事務局となってまちの駅を運営している。活動の継続は容易だが、住民が依存してしまうと意欲が下がる可能性がある。
- ・「事業委託型」は行政がまちの駅事務局に業務委託する形で運営するもので、イベントはあまり行われず、案内・休憩機能を重視している。
- ・「民間型」は、行政に関わることなく運営し、管理責任は

代表者が総括して行う。リーダーへの負担が増えるが、活動は柔軟で迅速に行うことができている。

<グループ討議>

高齢化対策(A グループ・B グループ)

- ・10 年以上経って、高齢化しているまちの駅が増えている。
- ・二代目の駅長が出始めたまちの駅ネットワークもある。
- ・地元の高校生をうまく巻き込むことが重要である。
- ・高齢化対策と言って高齢者を排除してはいけない。元気な高齢者にもっと頑張ってもらいたい。
- ・まちの駅利用者も参画するイベントを行い、若者の出番を設ける。
- ・駅長に会いに来る利用者が少なくない。駅長のファンを増やすことが重要だ。
- ・情報、声掛け、PR をもっともっと増やしていく。
- ・「おもてなし」を「思いやり」に代えてはどうか。
- ・クレイジーな発想で考えることも重要ではないか。



コンセプトの見直し(C グループ・D グループ)

- ・コンセプトの説明が必要である。若者も賛同し、お年寄りから子どもまでが理解できるものを作るべき。
- ・学生や生徒に知ってもらうためには、学校へまちの駅の機能をPRしてはどうか。
- ・コンセプト以上に、各まちの駅のレベルの向上が重要である。コンシェルジュ能力の向上、得意技を磨くこと。
- ・まちの駅のリーダー養成を行い、スキルアップを図る。
- ・地域の情報発信、SNS の活用が重要だ。
- ・無理のない、易しい「おもてなし」を推進する。
- ・「行政主導」や「行政頼り」ではなく、自前で自由な楽しいネットワークを目指すべき。

自分も人も楽しめる術(E グループ・F グループ)

- ・まちの駅への入り易さ、必要性を作る。例えば、スマホ充電器、自転車の空気入れを置く、など。
- ・若者はスマホしか見ないので、SNS の活用が有効だ。
- ・インスタグラムを使っているまちの駅はほとんどない。来場者に、SNS を使って WEB 上に投稿してもらう。
- ・交流型イベントを行う。マルシェ、フリマ、コスプレ、など。常に何かが行われていると人が集まってくる。
- ・滞在時間を長くする工夫が必要である。それにより駅長との関係が強くなる。
- ・様々なまちの駅のタイプがあり、意欲や温度差がマチマチである。個性のマッチングが出来ないか。
- ・今後の学生による継続的な研究に期待したい。長岡大学には、これまでの研究結果を活かした「まちの駅」のコンサルティングをしてもらいたい。

3. まちの駅の魅力の見つけ方、磨き方、売り出し方 ~マップづくりから考える

担当幹事：河井達志、関幸彦、渡辺栄一

<まちの駅 MAP の実例紹介>

○鹿児島まちの駅連絡協議会

鹿児島県全域のまちの駅 MAP。ブロックごとにまとめられている。小冊子で携帯できる。

○まち駅の駅ネットワークかぬま

102 駅の紹介 MAP。必要最低限の情報として地図と各店舗・施設を掲載。シンプルだが全体像が分かる。

○会津まちの駅

観光客を意識しており、「まちの駅」とともに「道の駅」を掲載、クーポンも付けている。駅長の顔写真付き。

○まちの駅ネットワークみつけ

表面に広域の地図、裏面に各駅の紹介があり、両面の中で必要な情報をコンパクトにまとめている。

<グループ討議>

- ・各地によっていろいろな MAP が存在するのは、目的が違うからだろう。まちづくり、地域おこしの形が違うために、MAP による地域の紹介内容も違ってくる。
- ・近所でまちづくりができるところも広域で取り組んでいる地域もある、合併で新しい街が出来た所とでも違ってくる。視点を変えて、MAP を作り目的を考えてから作るというのではないのか。



- ・デジタル時代でもあるので、IT を活用するべき。
- ・高齢化の地域であれば、紙ベースで分かりやすいものにする。イラストを入れるなどの工夫をする。

- ・まちの駅全体の広域 MAP もあるが、その他に手を挙げた地域のエリアマップを別個に作っている。大学生が取材して作っている。スタンプラリーをしているが、広域のためまんべんなく回る仕掛けになっていない。(長岡)
- ・クーポン付にして、もっと自分(のお店)を PR して、お互いの駅を取材して、つながりを強くして、おすすめの地域の組み合わせを考えたマップ作りをしたい。
- ・まちナビカードは、名刺大のカードに駅情報&MAP が掲載されており、クーポンも付いている。(勝山、見附)
- ・MAP に現状を載せるだけではなく、その先に見えるものを示すこと。写真も自分が見せたいものではなく、来訪者が見たい(と思う)ものを掲載すること。まちの駅の場合は「人」が重要。顔写真を載せると本人の責任感にもつながる。何か動く“きっかけ”になるといい。
- ・ターゲットに絞ることで、作る MAP が違ってくる。地

元の方用と、観光客用でも掲載する内容が違う。

- ・まちの駅ネットワークを使って情報を収集することが重要ではないか。単独のまちの駅の場合は、行政の観光担当を巻き込んで、他の観光資源、地域資源も掲載するといい。まちの駅の全国ネットワークを活かして、相互に紹介し合えるといい。
- ・まちづくり、地域づくりに生かせることが重要。まちを元気にするための手段として MAP 作りを考える。
- ・まちづくりは「人づくり」であり、「まち育て」である。地域の現地づくり、資産になり、地域の財産になることが重要である。

<総括コメント>

藤田とし子氏(まちとひと感動のデザイン研究所)

- ・駅の数も違うし、観光客用と地元対応のマップでも違うので、MAP の目的を明確化することが重要である。

①知ってもらいたいことの中身

- ・MAP のねらいが、まちの駅の実在の周知か、地域のファンになってもらうことか、MAP を持って足を運んでもらいたいのか。「知ってもらいたい」中身を明確に。
- ・地元の人と来訪者としてまちの駅に対する期待が違うので、できれば内向きマップと外向きマップを別々に作った方がいい。「誰に」によって OUTPUT が違ってくる。

②〇〇が得られるまちの駅

- ・まちの駅 MAP は「通行手形」として活用できるものがある。お店の紹介ではなく、自分を売り込んでみる。道後温泉では 20 年前のピンボケの顔写真を載せている。
- ・本業以外の目的で立ち寄るのがまちの駅。ワクワクするまちの駅、心が温かくなるまちの駅、おせっかいが止まらないまちの駅など、「〇〇が得られる」の〇〇を作ることで、寄り道したくなるまちの駅になる。

③見せ方の工夫、アイコンやイラストの活用

- ・感動する「ビックリマーク」が付いたマップづくり。
- ・心がほっこり温まる⇒“ハートマーク”、まちの歴史や文化が分かる⇒“知恵マーク”、おばあちゃんの漬物を食べながら⇒“おいしいマーク”等、それぞれのまちの駅のおもてなしを出していく。アイコン、写真、イラスト(顔に限らずポーズも有効)等を使って分かりやすく掲載する。



④「ナニコレ？」を表現する

- ・ほとんどの MAP は解説で終わっている。興味がある人にはいいが、その他の人には引っ掛からない。いかに共感してもらうか。思わず行って確かめないと気が済まなくなるような仕掛けを考える。

会長挨拶 久住時男(全国まちの駅連絡協議会会長／見附市長)



何とか、大交流会には間に合いました。国から呼ばれた会議が東京であり、遅くなりましたことを詫びします。会津地域では2度目の開催となりますが、前回にも増して有意義な議論がされたことと思います。福島市や伊達市にもまちの駅のネットワークが出来ました。地域を愛する思いが、地域を変えていきます。まちの駅は、そうした地域を愛する人がいるところです。そうした郷土愛を持ったまちの駅の仲間が全国にいます。この会は、大交流会からが本番です。全国各地のまちの駅仲間と会津・福島メンバーと大いに交流して、明日への活力にしていきたいと思います。

来賓挨拶 石田仁氏(福島県大熊町副町長)

今日はお招きいただきありがとうございます。大熊町は福島原発事故で全町民避難となり、会津若松市には大変お世話になりました。また、まちの駅の方々の「心のくつした便」ではクリスマスプレゼントをいただき、仮設住宅での不安な避難生活の中で元気づけられました。あらためて感謝申し上げます。大熊町は帰還に向けて取り組んでいます。一部地域が避難解除になり、現在新しい町役場を建設中で、来年度には新庁舎に移ることができます。まちの復興はまだまだ先ですが、前を向いて一歩ずつ進んでいるところです。今後とも皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いします。



大交流会の様子



会津東山芸妓の演舞



会津若松観光ビューロー新城猪之吉理事長の音頭で乾杯



150年の時を越えて（会津藩と薩摩藩）



アデウハさんとシティさんからまちの駅実験報告書の寄贈



会津の地酒



会津東山芸妓の千代乃さん



会津メンバーと芸妓の千代乃さん、月乃さん



焼津メンバーによる次回の全国大会のPR



東京メンバー

戊辰 150 年ゆかりのコース(まちの駅巡り)

会津若松ワシントンホテル（まちの駅ワシントンホテル憩いの広場）⇒ 会津藩校日新館（白虎隊の学び舎）⇒ 飯盛山（まちの駅 飯盛山）・會津とらぞう（まちの駅 白虎隊）⇒ 会津武家屋敷（まちの駅 会津藩）⇒ 割烹萬花楼（割烹の駅）⇒ 会津藩主松平家廟所 ⇒ 鶴ヶ城（お城の駅）・鶴ヶ城会館（まちの駅 鶴ヶ城）⇒ 会津若松駅・解散



「什の掟」で有名な会津藩校日新館



会津藩校日新館で集合写真



飯盛山の白虎隊のお墓の前で



會津とらぞう内の「まちの駅コーナー」



割烹萬花楼で昼食



鶴ヶ城は観光案内所が「まちの駅」に

＜即時集計アンケートの試行＞

まちの駅本部事務局の本原幸夫が考案した自動集計の即時集計アンケートを試行した。全国大会のフォーラム会場出席者全員にアンケートを行い、スキャンにより自動集計表を作成、分科会の中で配布して参考資料にすることを実験的に試みた。結果的には分科会の終盤に配布した。アンケート集計結果（抜粋）は以下の通り。（96 人分を集計）

1. 外国人来訪頻度

ほぼ毎日	週に1~2回	月に1~2回	年に1~2回	無し
9	7	12	15	45
10%	8%	14%	17%	51%

2. フリーWi-Fi の設置について

既に設置済み	近々設置予定	検討中	設置予定無し
51	2	10	17
64%	3%	13%	21%

3. 海外からのお客様にとって、「あなたのまち」の魅力はなんですか。（上位3つ選択ください）

歴史・文化	街並み	自然環境	人情	交通の便	名産品	農水産物	温泉	食事	体験プログラム
57	29	62	34	22	12	12	19	13	6

4. 「あなたのまち」に、海外からのお客様に来てもらうために必要なことはなんですか。（いくつでも選択可能）

まちの魅力PR	食事処	宿泊施設	交通の利便性	市民の関心	外国語能力	宗教・文化の理解	買物施設	フリーWi-Fi	スマホ決済システム
56	23	39	37	38	50	14	16	21	16

5. 海外を含め訪問者を増やすために、必要な連携先はどこですか。（いくつでも選択可能）

行政	観光協会	旅行会社	宿泊施設	身近にある高校・大学	マスコミ	道の駅	観光施設	地域住民	交通機関
56	23	39	37	38	50	14	16	21	16